

# 吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 会長/小田忠文 ホームページ<http://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日  
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106 中村小夜子 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 編集/会報委員会  
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便振込口座番号/00980-3-28845



## 目次

1. 表紙
2. 会長コラムと表紙の絵説明
3. 臨時総会・市民共同発電所プロジェクト報告
4. 学習研修委員会バスツアー  
「海の生物多様性に目を向けよう」
6. 生きもの委員会ニュース  
吹田のはらっぱ外部発表と田んぼ調査
8. 生活環境委員会 食のニュース  
すいたの食品ロスを削減しよう
10. 生活環境委員会ニュース  
森のクラブ・エコッキング  
& 2016年度「環境楽座」のご案内
12. 「吹田の郷」より読み解く当会の歩み(8)
13. 「あろっく吹田」を持って歩く(2)山田コース
14. 「環境先進都市吹田」の実現にむけて～「雨庭のすすめ」 & つれづれに 柚子
15. シンポジウム「保存民家の活用と市民参加」
16. 私の本棚より お勧めの1冊 「国宝消滅」

コラム

# 春夏秋冬

会長 小田忠文

当会が発足した 1997 年夏におこなった大木調査の報告書「すいたの古木・大木」の初版本と 10 年後の Vol. II をながめています。10 年ひと昔と言いますが、来年は最初の調査から 20 年になります。当時は携帯電話は通話ができるだけで、ショートメール機能が始まったころでしたが、ケータイを持っている人が限られていたのでメールの実用性はほとんどなく、しかも駅周辺とかでないと圏外になって通話できない時代でした。そのような状況下で大木調査をしたのでした。▲結果は吹田市内に幹周り 200cm 以上の大木を 38 種 420 本見つけました。420 本のうち 147 本 (35%) がクスノキでサクラ 41 本 (10%)、アベマキ 40 本 (10%)、エノキ 34 本 (8%) と続きました。サクラは街路樹などのソメイヨシノのほかにかすみザクラやヤマザクラを含めた数でした。▲雑木林のアベマキが大木となっていて全体の 10% を占めました。エノキは庭木や街路樹として植えられたり一里塚の目印として植えられたもので、江坂町、江の木町の地名の由来ともなった木です。アベマキ・コナラ・シイの大木が吉志部神社や垂水神社の鎮守の森を形成していました。一方、千里ニュータウンではポプラ、ユーカリなどの植栽された外来種を除いてほとんど大木を見つけれませんでした。▲10 年後の 2007 年の調査で大木は 928 本と倍増しました。本数の多い樹種はクスノキが 372 本 (40%)、ポプラ 69 本 (7.4%)、エノキ 63 本 (6.8%)、メタセコイヤ 60 本 (6.5%) で

した。97 年と比べてサクラは 54 本と 1.3 倍、アベマキは 41 本で 1 本増えただけだったのに対し、ポプラは 3.6 倍、メタセコイヤはなんと 15 倍も増えていました。他にラクウショウやプラタナスが 7 倍になっていました。▲住所別で万博公園は 97 年に 25 本だった大木が 07 年には 116 本と 4.6 倍に増えたのをはじめ、千里ニュータウンの 8 つの住区では 106 本が 355 本 (3.3 倍) に増えました。万博公園とニュータウンは更地に植樹した木々が太木として大量に合格してきたことが特徴でした。両地域の大木合計本数 471 本は全地域 928 本の 51% と過半数を占めました。▲97 年のデータには位置情報が住所しかなく 07 年の調査時に、該当する大木を見つけるのに苦労したことが多々ありました。97 年の記録はポジカラーフィルムだったので整理が大変だったこともなつかしいです。デジタル化した 07 年にはブログで随時、調査状況をアップしていきました。統計手段として 97 年に Excel を使える人は 2~3 人でしたが 07 年には担当の全員が Excel を使い、メールで容易にデータ交換ができました。▲07 年の編集後記に「本調査や下見そして編集作業には延べ千人を超える人が関与してこの冊子が完成した」とあります。まもなく 20 年目の大木調査が始まります。計測そのものは数分で終わります。調査や編集を通じて語りあう機会があることこそ市民が調査する真骨頂だと思います。私は次の 30 年目の調査は体力的に無理でしょうから、次回を担当してくださる人たちの積極的参加をお待ちしています。大木ブログ [http://blog.goo.ne.jp/taiboku\\_2007](http://blog.goo.ne.jp/taiboku_2007)

<表紙の絵>

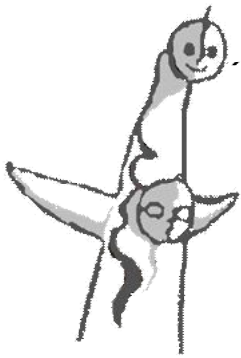
吹田の生きものシリーズ (8)

## フユノハナワラビ

「ハナヤスリ科」、別名「カンワラビ」、シダの仲間。「千里第 4 緑地」の紅葉が枯れ葉となって落ちるころ、落ち葉が積もる林床で、芽を出し、みどりの葉を広げる。みどりの葉は「栄養葉」(えいようよう) と呼ばれ、植物にとって大切な光合成を担う葉である。木枯らしが吹くころ、みどりの葉の根もとから「孢子嚢」(ほうしのう) を付けた「孢子葉」(ほうしよう) と呼ばれる「葉」を伸ばし始めるが、その形が花に見えることから「ハナ」と呼ばれているようだ。

「千里第 4 緑地」の草木が冬ごもりをしている間に、茂った草やササを刈り、樹木の枝打ちや竹の間伐などの植生の手入れを行っているが、「山眠る」季節に一人起きている「フユノハナワラビ」に気づく。やがて「山笑う」季節になると「栄養葉」も「孢子葉」も共に枯れ眠りにつく。

(表紙の絵と文：生きもの委員会 塩田 敏治)



## 「自然エネルギーすいた」報告 No.4

自然エネルギーすいたプロジェクトチーム

小田信子・喜田久美子

# 吹田ぶくぶく市民共同発電所プロジェクト

## いよいよ着工 もう一息の設置資金

### ●いよいよ着工

設備の工事について、3社と相見積もりを実施した結果、施工費や実績などを考慮して(株)エコテック(本社:京都市)をお願いすることに決定しました。10月経産省へ設備認定申請をし、認定後の11月15日、請負契約を結びました。工事は12月半ば1週間程度の予定です。工事完了後、関電と系統連系を実施します。工事は屋根や屋内工事のほか若干の停電もあるため、ドリーマーぶくぶくの店舗や利用者さん、事務所機能へ迷惑をかけないようにと綿密な打ち合わせを行っています。

ようやくここまで来ました。年末の工事なので、点灯式などは来年になりますが、プロジェクトチームのメンバーはいま点灯式のアイデアを練っているところ。楽しい点灯式にしたいものです。

### ●設置資金はあと一息

さて、肝心なのは設置資金です。11月25日現在の募金状況を報告します。事業計画全体の予算は260万円で、表のとおりイベント時の募金が77,214円。これは8月の地域の夏祭りを皮切りに

12回、いろいろなイベントや団体の会議などをお願いしてきた結果です。寄付は375,465円。これには2006年の古江台中学校の市民共同発電所設置終了後から10年間にわたる「市民共同発電所設置への寄付」207,465円を含みます。

協力金は1口5万円で20口募集しました。契約手続き中で入金はまだなもの30万円を含めて100万円が集まりました。ご支援ありがとうございます。

目標: 1,600,000円  
現在: 1,452,679円  
残額: 147,321円

種別	金額(円)
イベント時の募金	77,214
寄付	375,465
協力金	1,000,000
合計	1,452,679

でも、あと147,321円足りません。多くの市民の思いを受けた灯が点灯するまでもう一息。どうぞよろしく願いいたします。

### ●「ゆめシール」も集めています

古江台中学校への設置で大変威力を発揮したディオス北千里商店会の「ゆめシール」も集めています。ぜひ、ご寄付をお願いいたします。

送付先: 〒564-0032 吹田市内本町2-18-8(小田)

## ●第18回 臨時総会 結果報告

設置資金を得るための協力金のしくみには、年度を超えた長期借入金が発生します。その場合には、総会で議決を得る必要があり、10月1日(土)ラコルタ会議室で臨時総会を開催しました。結果、賛成多数で承認され、協力金のしくみがスタートしました。

(議案) 2016年度事業の吹田ぶくぶく市民共同発電所プロジェクトにおいて発生する長期借入金を100万円以内とする。

正会員111名中 出席15名 委任状67名  
賛成82名 反対0





# 学習研修委員会バスツアー

## 「海の生物多様性に目を向けよう」報告

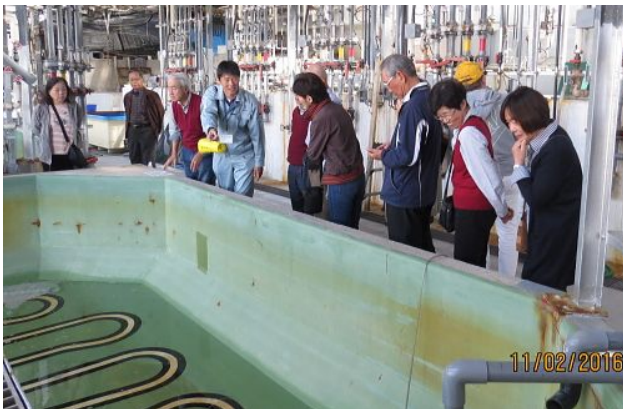
会長 小田忠文

今年の春ころ、すいた市民環境会議の一つの柱である学習研修委員会が、今年度の事業計画を考えていた時、委員の一人が「生物多様性をテーマとしたツアーをしよう」と発言したことから今回のツアーが実現しました。行く先の目玉は近大マグロですが、そこに至る道中を楽しもうと考え、初めに大阪府岬町にある地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター（以下、水産センター）次に和歌山県田辺市にあるナショナルトラスト発祥の地、天神崎に行き、最後に近畿大学水産研究所大島実験場（以下、大島実験場）を見学するというコースを作りました。生き物や自然を相手にしたツアーは天候が重要な要素なので“晴れの特異日”といわれる文化の日に大島実験場を持ってくることにして計画しました。

### ◆水産センター 大阪湾生態系の管制塔

11月2日午前、雲ひとつない岬町の水産センターに到着しました。ここは大阪湾の環境を守るための仕事をしている施設です。具体的には水産センター所有の船が大阪湾内に20箇所に設けられた定点観測ポイントで海水や生き物を採取してそのデータを逐次ホームページで公開しています。

大阪湾沿岸の自然の海岸は全体の4%（19km）しかないの、多様な生物が集まり、育つように浜辺や干潟の再生に努めると同時に魚の種類ごとの大きさや体重の傾向を調べ大阪湾の魚の数を把握し、数を減らさない漁業の方法を調査研究しています。



さらに施設に生産・飼育棟を設け、ガザミ、クロダイ、カサゴ、ヨシエビ、マコガレイ、アカガイなどを卵から稚魚まで育て、外敵から身を守ることができるようになったら海に放ち、海で成長したものを漁獲するという栽培漁業をしています。

放流するときにはタグをつけ、獲れたときにどこで放流したものが分かるようにしています。小中学校の校外学習で生徒に魚の放流を体験してもらっています。

このように魚を増やすことも大きな仕事です。大阪湾の魚介類にとっての栄養源は淀川と大和川など川から入ってくる森の恵みだそうです。

このような努力の結果大阪湾には約400種の魚がいます。94種は大阪湾で定住し90種は産卵や生育時に大阪湾を利用しています。大阪湾は瀬戸内海にある播磨灘、備後灘、伊予灘、周防灘などのなかで単位面積当たりの漁獲量がトップなのだそうです。ここは大阪湾を再生して親しみやすい魚庭（なにわ）の海となるよう努力している施設です。

説明の後、飼育棟を見学しました。大きなプールにたくさんのカレイの幼魚が泳いでいました。今朝大阪湾に放流した残りの幼魚だそうです。

### ◆日本のナショナルトラスト発祥地・天神崎

午後は田辺市の天神崎に行きました。天神崎は白浜温泉の対岸にある田辺湾北側の岬で、黒潮の影響を受けサンゴが約60種、ウニも約50種あり、磯の観察で200種もの生物が記録される生き物の宝庫です。しかも市街地から数分の距離にあります。このように多様な生き物が育つ磯はその後背地にある小さな森からの栄養で養われています。

すなわち森・磯・海の三者が一体となってひとつの生態系を作っているのです。

しかし1974年この後背地を高級別荘地にするという計画が持ち上がったことに端を発して、この自然を守るために「天神崎の自然を大切にす会」が結成され全国からの募金による買い取り運動がスタートしました。



日本のナショナルトラスト発祥地といわれる天神崎は、南方熊楠を輩出した田辺市という地域の力があつたからこそ守られてきたのだと思われて感慨深いものがあります。

その活動を続けている「天神崎の自然を大切にする会」の米本理事の案内で天神崎の磯と後背地の湿地と山を案内してもらいました。後背地の湿地には 50 年前の吹田では当たり前に見られたツリガネニンジンやヨメナ、ガマなどの植物が当たり前前の顔をして生えていました。そして快晴のこの日、天神崎で見た夕日は言葉にしがたく、思わず拝みたくなるような美しい景色でした。

#### ◆大島実験場 近大マグロの生産地

翌日も雲ひとつない青空のもと一路本州最南端の町、串本町をめざし、串本から橋を渡った紀伊大島に大島実験場がありました。建物に入ると体長 220cm のマグロのはく製が目に入ってきました。この実験場で稚魚から育て 16 年間の寿命を終えた最初のマグロだそうです。



このはく製が見守る中で副センター長の岡田教授が近畿大学水産研究所の歴史を語ってくださいました。1949 年当時、獲ってくればいくらかでも魚は手に入った時代に「海を耕せ」と近畿大学初代学長の世耕弘一氏の号令のもと白浜に独立採算制で臨海研究所が誕生しました。

1954 年からブリやカンパチ、マダイの養殖によって事業資金が回るようになってきました。その結果、1965 年に世界で初めてヒラメの種苗生産（養殖や放流のために子供を作ること）に成功し以来現在までに 20 種の種苗生産に成功しました。さらに種苗生産から完全養殖に成功した魚種はブリ、ヒラマサ、カンパチ、クエ、トラフグなど 17 種に及びます。

近畿大学がマグロにかかわったのは世界的にクロマグロの漁獲量が減少し、排他的経済水域が 200 海里と広がったことを受け 1970 年に水産庁

の「マグロ類養殖技術起業化試験」という 3 年間のプロジェクト研究に参画したことが発端でした。当時、天然マグロから採卵することは不可能に近く、幼魚から養殖技術を開発することが目標でした。しかし 3 年間の研究期間には成果を得られず近大以外の研究機関は撤退しました。研究を継続して 1979 年に初の自然産卵があり孵化にも成功しました。しかし稚魚は体長 30cm までは育つと生簀（いけす）に衝突して死ぬということがわかり、生簀の構造研究も必要となりました。

結局 32 年間の紆余曲折があつて 2002 年に世界初の完全養殖ができ、04 年に初出荷し、そして 14 年に出荷は 10 万尾に達しました。外部資金に頼らない独立採算方式が成功への道でした。しかし世間には「魚は天然もののほうがおいしい」という信仰に近いものがあり国内の養殖業は衰退しています。そこで近大は赤字覚悟で東京と大阪にアンテナショップを出して養殖魚のおいしさを理解してもらおうと努力しています。

マグロのエサは配合飼料ですが、元は天然の魚なので、大豆やトウモロコシから飼料を作ったり将来はバクテリアに蛋白を作ってもらうことも視野に入れて研究しているそうです。



講義の後、船で 10 分のところにある生簀での養殖クロマグロの状態を見学しました。最初の生簀は直径 20m で 7 月に生まれた体長 30cm くらいの幼魚数千尾がいて、人工飼料の魚粉やイワシを与えるシーンを見せていただきました。つづいて直径 30m の生簀にいる生後 6 年、採卵用のマグロ 36 尾にサバやアジを与える様子を見せていただき、一同大満足でした。

大島実験場を後にして近くの潮岬観光タワーの食堂で近大マグロ定食をいただいたことも追記しておきます。



# 「吹田の小さちやい原っぱ」外部発表と田んぼの調査

## 1. 日本植生学会(10/23)で横川氏がポスター発表

北千里にある「小さちやい原っぱ」は2011年ヤマサギソウ発見以来の調査で、アイナエ・イヌセンブリ・スズサイコと大阪府絶滅危惧種が4種生息しているホットスポットとなった。

このホットスポット、特にヤマサギソウの生育環境について大阪自然史博物館の横川・長谷川両学芸員の全面協力を得て、現地調査(2013年～2014年)を行った。横川氏は土壌分析結果を含めて解析され、10/23大阪産業大学で開催の日本植生学会2016で右に示すポスター発表された。

1m四方の区画(コロラド)70カ所を、土壌分析などから5グループに類型化した結果は、

- ①ヤマサギソウ生育地はネザサが多い
- ②湿った所にヌマトラノオ・チゴザサが多い
- ③肥料成分が多い所はセイタカアワダチソウなど草丈が高いなど、生育する野草の違いは土壌の違いによるものであること、これまで原っぱを歩いて感じていた植生の違いが、数値として確認できた。

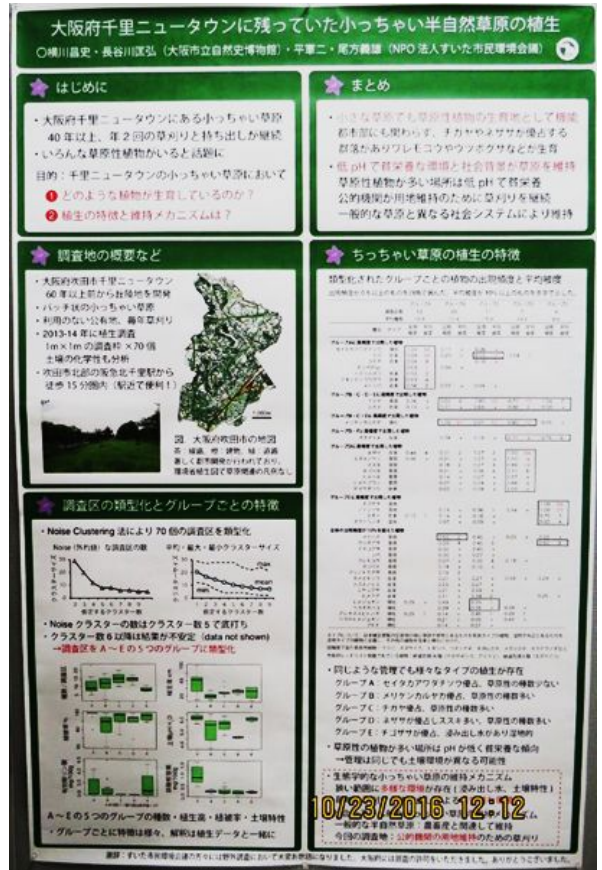
吹田の「小さちやい原っぱ」は、年2回(6～7月、10～11月)の草刈が45年間続けられてきたこと、しかも刈り取った草は放置せず回収されたことで、昭和40年以前の農家が行っていた田んぼの畦畔・池の堤防などと同じ管理が行われ、田んぼのない千里ニュータウンにチガヤ草原が再現されたものである。ポスターには自然史博物館長谷川氏の他、すいた市民環境会議から平軍二・尾方義雄の名前を入れた。

発表時には大会委員長で大阪産大教授前迫ゆり先生などの研究者、コンサル、学生などが次々訪れ、横川氏と質疑が繰り返された。その中に、千里ニュータウンで生まれ育った大学院生や吹田市に引っ越してきたばかりの方もおられたので、後述の大阪自然史フェスティバルで「吹田の原っぱ」を展示することから、来場を呼びかけた。

## 2. 大阪自然史フェスティバル(11/19,20)で展示

毎年11月中旬に開催されている大阪自然史フェスティバルは、全国から環境団体や望遠鏡メーカーなど、約100団体が参加し、講演会、パネル展示、ゲーム、観察会など様々な催しが開催されている。すいた市民環境会議は「吹田の小さちやいな草原」を展示することとし、吹田の原っぱや希少種の写真、そして上記日本植生学会で報告した横川氏作成のポスターも展示した。

会場へは上述の植生学会に来て質問された方が2人来てくださったので、希少種発見から現在までの経緯を説明するとともに、今後、すいた市民環境会議の活動に参加をお願いした。また、植物関係のNPOの方や野鳥の会会員で植物好きの人などに吹田の原っぱを紹介した。総じてブースを訪れてくださる方が少なかったため、来年も参加する場合はお子さん相手のゲームを用意するのが良いと思われる。



横川氏の報告を聞かれる武田先生と大阪産業大学教授前迫先生

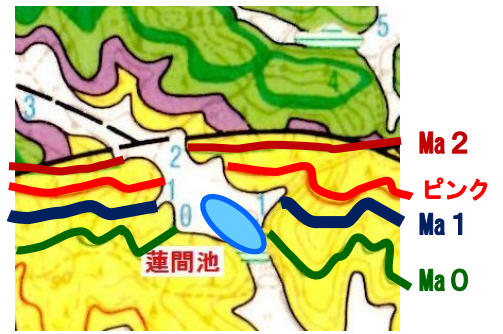


来場者に説明中の長岡監事・高島理事(右から)

### 3. 吹田の小さいやい原っぱの地質は海成粘土層 Ma-1

国立循環器病研究センター前の吹田の原っぱに、粘土層が露出しており、アリノトウグサとトダシバは生育するが、チガヤは全く生えていない場所がある。千里丘陵は千里層群から成り立ち、Ma-1～Ma13 と名付けられた海成粘土層があるが、吹田地学会事務局長林隆夫氏に現地を確認してもらった結果、市原実氏の地質図\*に示された Ma 1 層(約 100 万年前の地層)の露頭であるとわかった。

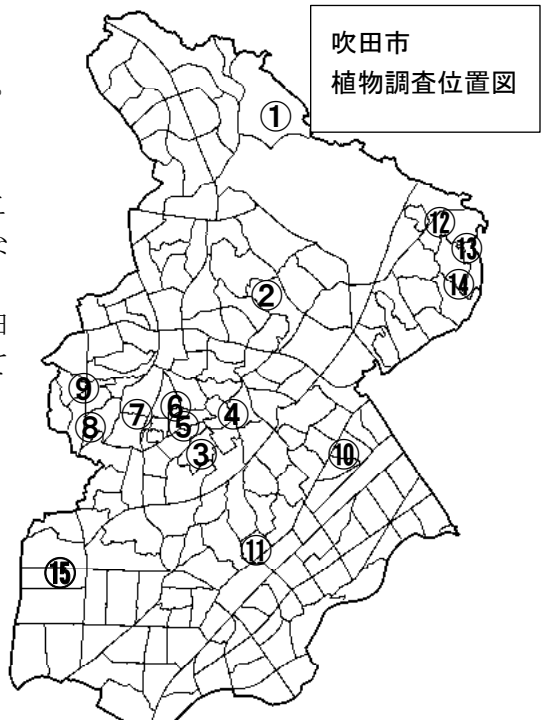
\* 市原実:千里丘陵とその周辺の地質図 より →



### 4. 田んぼの植物調査

前号報告の通り、今年夏から神戸大学名誉教授武田義明先生が中心になり吹田市内の田んぼを中心に生き物調査を開始している。調査地の田んぼはすべて私有地、施錠されている場所もあるなどで、前もって調査日時をきめ、地主の方の許可を得る必要があった。雨天があり当初より大幅に遅れ、11月上旬ようやく終わることができたが、11月は稲刈り終了後のため、地主さんの理解を得ないで実施した調査地もある。

調査地に概略位置は右図の通りで、全部で 15 町、21 カ所(内田んぼは 20 カ所)となる。吹田市内で昔からの畦畔がそのまま残っている田んぼは、山田東を除いてほぼ調査することができた。調査結果を集約中であり次号に報告するが、前回報告の以後に実施した調査状況をいくつか簡単に紹介したい。



吹田市  
植物調査位置図

1) ⑧春日では 3 カ所を調査したことから、150 種を越え、町名別で最大種数が確認できた。

(尚、田んぼでないが①山田丘(阪大キャンパス)で 160 種を確認している。)

2) ⑤千里山西 6 丁目(イオン南千里店裏の高台)、⑨桃山台 5 丁目(桃山台駅南 500m 御堂筋西側)では夫々 130 種を確認し、調査した田んぼ 20 カ所で最も多い地区となった。

3) 全体では田んぼの中や周辺を好む種、例えばウキクサの仲間、シダの仲間、カヤツリグサ科などで、吹田の自然 2011 (吹田市発行) にリストアップされていない新しい種が確認された。

4) また植物ではないが、④佐井寺 4 丁目でジムグリ(へビの一種)が確認され、吹田初記録となった。

今回の調査は秋の野草が中心となったので、来春 5 月の花の季節に、春の野草調査を実施する予定である。皆様のご協力をお願いします。

\*\*\*\*\*



千里山西6丁目

- 調査した町名 ( )内は調査箇所数
- ①山田丘 ②山田西 ③千里山高塚(2)
  - ④佐井寺(3) ⑤千里山月が丘
  - ⑥千里山西 6 ⑦千里山竹園 ⑧春日(3)
  - ⑨桃山台 5 ⑩岸部北(2) ⑪朝日ヶ丘町
  - ⑫青葉丘北 ⑬青葉丘南 ⑭新芦屋上
  - ⑮江坂町

## 「吹田の大木調査 PartⅢ」トライアル観察会(第 2 回)は万博公園

2017 年度実施予定の「吹田の古木・大木調査 PartⅢ」に先立ち、12 月 17 日(土)に関西大学で行うトライアル観察会に続き、第 2 回目を万博公園で実施する。「万博公園にどんな大木があるか」を知りたい方、「調査に協力を」と思われる方、ぜひご参加ください。

日時： 1 月 22 日(日)9:30～12:00 頃

集合場所：万博公園中央口

解散場所：万博公園自然文化園内の予定

持ち物：軍手、「吹田の古木・大木」冊子(無い方には 200 円で販売)

参加費：会員 200 円、非会員 300 円

申込先：平 軍二(電話 090-6901-1425 メール g-hira@nifty.com)

尚、カラー資料を準備するため、必ず電話 or メールでお申し込みください。



# すいたの食品ロスを削減しよう

## ●「勿体ない」と感じるころ

私たちが何をどのように食べ、どのように捨てるか、食べるということは生きること、というほど広くて深く、土地や気候、歴史などにより多様性に満ちて、食は文化でもあり精神でもあります。

お百姓さんが八十八回も手間をかけて育てるから「米」というように、一粒でも大事にしなくてはいけないよ、と言っても、TPPによって、飛行機で粳を蒔いて大型機械で収穫するカリフォルニア米が安価に入ってきたら、そうした観念も融解してしまいそうです。

それでも、「いただきます」と「ごちそうさま」を言えるように、今でも子どもたちに教える家庭がほとんどではないでしょうか。風化しつつあるとはいえ、ご飯を残すことを「勿体ない」と感じるころはかすかに残っている。食料を無駄にしてはいけないと、これには誰もがどこかで無意識のうちに感じることでしょう。食べられずに捨てられる食料の多さに、直感的になんとかせねばと思うのも先祖から伝わるものがあるからかもしれません。

食品ロス（食べられずに捨てられる食料）が多いほど経済は潤う。食品ロスを見直し食生活スタイルを考える取り組みは、お金だけで評価する時代を終わらせようという先駆けといえるかもしれません。

## ●国の運動

国では食品廃棄物の発生抑制の観点から、食べものの無駄をなくす運動を展開しています。分か

りやすくまとめた政府広報を引用しますと（文1）

日本国内における年間の食品廃棄量は、食料消費量全体の3割にあたる約2800万トンで、このうち売れ残りや期限を超えた食品、食べ残しなど、食べられるものが捨てられる食品ロスは年間約632万トンとされ、世界で飢餓で苦しむ人々への世界の食糧援助量、年間320万トンの倍近い量が日本国内で食べられずに廃棄されている。

食品ロスは、食品メーカーや卸・小売店、飲食店、家庭と流通から消費の段階で発生する。メーカーと卸・小売店からは、3分の1ルールによる返品や期限超えの在庫の処分問題など、商習慣の見直しが始まっている。家庭における食品ロスは食品ロス全体の半分程度の年間約302万トンが発生している。

家庭から出される生ごみの中には、手つかずの食品が2割あり、そのうちの4分の1は賞味期限前だが捨てられている。（表）

私たちが食品ロスを削減することで、飢餓に苦しむ人々を救えるかどうかは別の議論だとしても、廃棄物減量の観点から、また日本の食料自給率が39%（カロリーベース）と、食の安全保障の面でも重点課題であり、政府は、平成19年7月から「食料の未来を描く戦略会議」を開催し、平成20年10月に「フード・アクション・ニッポン（FAN）」を立ち上げ取り組んでいます。

## ●吹田市のごみ

ちなみに吹田市では、燃焼ごみの内訳を見てみ

表 国内の食品ロスのうちわけ

出典：文献1

	食品ロスとなっているもの	発生量
食品メーカー	定番カット食品や期限を超えた食品などの返品	約330万トン
	製造過程で発生する印刷ミスなどの規格外品	
小売店	新商品販売や規格変更に合わせて店頭から撤去された食品	約302万トン
	期限を超えたなどで販売できなくなった在庫など	
レストランなどの飲食店	客が食べ残した料理	約302万トン
	客に提供できなかった仕込み済みの食材など	
家庭	調理の際に食べられる部分を捨てている	約302万トン
	食べ残し	
	冷蔵庫などに入れたまま期限を超えた食品など	
合計		約632万トン



ますと（平成 23 年〈2011 年〉8 月調査実施）、資源化可能物が 33.4%（プラスチック製容器包装を含むプラスチック類 16.8%、紙パックなど資源化可能な紙類 15.3%、その他）、堆肥化可能物が 44.3%（剪定枝 1%、厨芥類 43.4%〈流出水分含む〉）で、残りの資源化できないものが 22.3%となっています。重量的には、燃焼ごみのうち、厨芥類が 4 割以上占めていて、もし手つかずの食品が 2 割程度あるとすれば、燃焼ごみの 1 割程度は食べられる食料、ということになるようです（文 2）。

吹田市のごみ排出量は、吹田市の人口増大に伴って、平成に入っても増大の一途でしたが、人口の増大が続く中でも、平成 12 年の年 14.1 万トンピークに減少を続けており、平成 22 年度には、ごみ排出量全体で 11 万 11 千トン、そのうち、家庭系が 7 万トン、事業系が 4 万 1 千トンとなっています。食品ロスの削減を徹底するだけで、年間 1 万トンくらいのごみを減らすことができるかもしれません。

### ● 30・10 運動

この種の国民運動にいつもつきものであるのは、やはり「では地域でどのように取り組み、広げるか」でしょう。その一例として国も地域で展開する運動として推奨している取り組みの一つに 30・10 運動（さんまるいちまる）運動があります。

これは長野県松本市が一般廃棄物削減、食品ロス削減を目指して「残さず食べよう！ 30・10 運動」として始めたのが最初で、今では全国のいくつかの市で取り組まれています。内容はシンプルなもので、会食や宴会時の食べ残しを減らす取り組みで、

- 1) 注文の際に適量を注文する、
- 2) 乾杯後 30 分間は席を立たず料理を楽しむ、
- 3) お開き前 10 分間は自分の席に戻って、再度料理を楽しむ、

この 3 項目を職場の宴会から始めようというものです。（図）

そして、以上を宴会時に行うと宣言する事業者も、また、そのような宴会に協力する飲食店も、ともに市に申告すれば、市役所が審査の上、推進事業者として認定し、市のホームページで称揚する、「松本市「残さず食べよう！」推進店・事業所認定制度」も設けています。特にメタボを気にする私などは、推進店で、プラチナメニュー（量より質を重視したメニューのこと）の提供、食べ残しの持ち帰りへの対応、小盛メニューの提供、などが用意されているのは有難いことです。健康に



図 松本市 30・10 運動、啓発用コースター

も良いですね。すでに市内 69 店舗が協力しているようです（文 3）。

### ●吹田市では

吹田市は、現在、「吹田市一般廃棄物処理基本計画改訂版（平成 24 年度～平成 32 年度）」の中間見直しをしているところです。その中でも食品ロス削減についても議論されているところです。

行政、市民、事業者の三者協働組織「アジェンダ 21 すいた」でも、吹田市内の食品ロス削減に向けて、上述の「30・10 運動」の展開や、家庭で余っている食べ物を福祉団体に提供させていただく「フードドライブ運動」、スーパーで賞味期限間際の食料品にポスティングする「連れて帰って運動」など、全市的な取り組みの展開について、話し合っております。

食べることは、私たちと環境とのつながりが一番大きく、身体と心、生き様に通じる根底的なことといってもよいかもしれません。食べることを考えることは、本当に広くて深い、「いただきます」「ごちそうさま」に収斂される、限りないテーマのように思えます。

### 文献

- 1) 広報オンライン、「もったいない!食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らそう」、[www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html](http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html) (2016.11.23)
- 2) 吹田市、「吹田市一般廃棄物処理基本計画改訂版、平成 24 年度（2012 年度）～平成 32 年度（2020 年度）、一吹田らしいコミュニティ活動を展開し、環境負荷の少ない循環型社会の構築を目指す―」、平成 24 年（2012 年）3 月、109 頁
- 3) 松本市、「松本市「残さず食べよう！」推進店・事業所認定制度」、<http://www.city.matsumoto.nagano.jp/shisei/kankyojoho/osirase/nintei.html> (2016.11.23)

## 9/25 (日) 生活クラブ生協フェスタで森のクラフト

このフェスタは、かつて「生協まつり」と呼んで千里南公園で開催されていたのですが、2年前から花博記念公園のハナミズキホールで開催されるようになりました。ドームなので雨の心配がいきりません。環境会議はフェスタになってから初めての参加です。

今回は、市民共同発電所設置のための資金集めという目的をもって、手作りリースのワークショップを展開するだけでなく、スタッフ手作りのリースや小物



参加者がいっぱいスタッフ大忙し。疲れたけど楽しかったです。

も販売しました。開店するやいなや参加者があり、その後は引きも切らずという状況。親子連れが多く、男の方の参加もありました。100人は参加してくれたでしょうか。手作り品もよく売れました。市民共同発電所に関心を持ってくださる方も多く、寄付 11,400 円をいただきました。(報告：喜田久美子)

## 10/23 (日) 浜屋敷で森のクラフト

市民共同発電所設置のための啓発活動の一つとして、生活環境委員会と SES (すいた自然エネルギープロジェクトチーム) が共同し、森のクラフトで参加しました。参加者は小学生から年配の方まで。ゆったりと時間をかけて取り組み、納得のいく作品作りをされているように思われました。材料も無駄使いされる

ことなく作られていました。ただ、ブースが奥まった場所だったため、参加人数がすくなかったのが残念。作品の販売だけは、人通りの多い場所で実施して、小さなリースがいくつも売れました。市民共同発電のチラシも精力的に配布し、



手作りですよ。寄付もお願いしますね。



10,995 円の寄付をいただきました。

やってみると面白いもんだな。うまくできた！

(報告：大倉由美子)



## 11/1 (火) 亥子谷コミセンでエコ・クッキング

亥の子谷コミセン暮らし情報部会が主催、「エコ・クッキングに挑戦」と題して実施されました。参加者は15名でした。エコ・クッキングの内容について説明のあと、3班に分かれて調理しました。当日のメニューは「ゆで豚・温野菜添え、野菜スープ、じゃご飯、マスコバド糖プリン」。

今回は試食前に、普通調理と保温調理に食味的な違いがあるかをみる**官能評価テスト**を実施しました。じゃがいもと人参について、普通に茹でる場合（茹で15分+消火後5分）と、茹でを短く（10分）そのあと保温（10分）したエコの場合を比較しました。結果として、人参では保温調理した方が「煮崩れしていない」、「固さが固い」の2項目に差が認められ、じゃがいもは食味的な差はどの項目にもみられませんでした。今回の条件では食味的な差はなかったものの（人参では保温調理がベター）、保温調理によるガス加熱の省エネの有効さが確認できました。

（報告：安田直子）



真剣に官能評価に挑戦しました

**官能評価とは**、人間の五感（資格、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）を使って行う検査。石鹸の香りの強さやせんべいのかたさ等々、その良さや好みを判定する際、人間の感覚器官を測定器として品物の特性や差を検出するもので使用領域は広い。分析型と嗜好型官能評価があり、物理的、化学的に機器測定器で測るのと比べ簡便性もあり、特に嗜好型官能評価は必要性も高いが、生理的、心理的に偏りを持つ人間が測定器なので、評価が変化することもあり、目的に応じた最適条件を設定することや統計的処理が必須である。

## 第6回 環境楽座

学習研修委員会 小田信子


今年の環境楽座は子育て世代を対象に企画しました。ラコルタと泉町にあるコミュニティスペース「モモの家」の協力で、多くの若い人達と環境について考えたいとの試みです。

- 回ごとの募集です。
- 参加費は各回別々です。
- 詳細は決定次第ホームページに掲載します。

環境楽座

### 森のクラフト

## クリスマスリースをつくろう!



申込開始11月11日～

**12/11(日)**  
13:30～16:30  
(ラコルタ)

対 象 子育て中の保護者や子ども（5歳以上）  
先着 30人

参加費 大人 300円 子ども 200円

## 第6回 環境楽座

子どもたちに残す環境はどんなものかな

- 第1回** 12/11(日) 13:30～16:30 (ラコルタ)  
クリスマスリースを作ろう  
講師：生活環境委員会 喜田久美子
- 第2回** 1/29(日) 10:00～14:00 (南千里地区公民館)  
パパにもできるエコ・クッキング  
講師：生活環境委員会
- 第3回** 2/25(土) 13:30～16:00 (ラコルタ)  
子どもたちのために～フューチャーデザイン～  
講師：原圭史郎さん(大阪大学大学院 准教授)
- 第4回** 3/29(日) 10:00～14:00 (千里南公園)  
食べられる野草を探そう～サバイバル術～  
講師：生きもの委員会 平軍二

- 申し込み
  - ・ 第1回、第2回はラコルタへ  
TEL：06-6155-3167 MAIL: info@suita-koueki.org
  - ・ 第3回、第4回は環境会議へ  
TEL：090-8375-0647 MAIL: k-kaigi@hotmail.co.jp
- 参加費は材料・資料費として300円～500円程度



# 会報『吹田の郷』から読み解く 当会の歩み(その8)

会報委員 松岡要三

今号では第 63 号(2009 年 6 月)から第 74 号(2011 年 4 月)まで、当会誕生(1997 年 3 月)から 13 年目 14 年目の活動を紹介します。

大きな事業としては、第 2 回古木・大木調査のマップと冊子が 2009 年 4 月末に完成したことです。調査に参加した人は 49 名、幹回り 2m 以上の大木が 10 年前の 420 本から 2 倍以上の 928 本を確認しました。冊子とマップには 15 名が関わり A5 版 136 頁の冊子と B3 版のマップを制作しました。2007 年 2 月の予備調査から 3 年 3 カ月延べ 1000 人以上が参加した大事業でした。

第 2 は吹田市観光マップ「あるック吹田」の大幅改訂、2010 年版の委託を受け、2010 年 2 月に納入したことです。過去の散策会のデータに加えて、改訂に向けまちなみ探検隊を組織し 2009 年 2 月から月 2 回計 21 回、広く市内を調査しました。春日・緑地公園コース、神崎川コースの追加、万博公園、大学、鉄道を取り上げ、内容を一新しました。またコース上で活躍する市民団体も紹介しました。

第 3 はヒメボタルの天然記念物指定を要望し、それが実ったこと。吹田市立博物館の 2009 年夏季特別展示「吹田市の自然物語」の企画運営に参加し、それを成功させ、歴史中心の博物館から大きく転換させた事です。

また 2010 年は万博 40 周年、市制施行 70 年にあたり、それに関連して多様なイベントがあり、それらに協力しました。建替えられた佐竹台公社住宅にオープンカフェができ、ニュータウンに新しい時代が始まった時期です。また 2011 年 3 月 11 日の大震災により、被災地支援や防災が新しい課題となったことです。

そのほかにも意欲的な活動が多くありました。以下に委員会別に紹介します。

## 1. 学習研修委員会の活動

北千里公民館で 2009 年 12 月から 3 回、親子学習会「三崎さんの楽しい実験室」連続講座。2010 年 7 月ピアノ池「ヒマガマ刈り大作戦」を他団体と協働で実施しました。

## 2. 生きもの委員会の活動

「吹田の古木・大木」冊子完成を記念して、2009 年 5 月から 2011 年 2 月まで 11 回の大木観察会を実施し継続して大木・古木の推移をフォローし、その後も大木の行く末を見守っています。

2010 年 5 月から 8 月にツバメ調査を実施し、「吹田市・ツバメ巣マップ」を制作。会報・HP で PR し、4 月 16 日の朝日新聞でも取り上げられ、広く知れわたりましたが、調査の主役は 6 月に開設した twitter

で 100 通近くの情報寄せられました。予想されていたことですが、確認された巣は 1998 年の 263 個の 28%、74 個と激減しました。

## 3. まちなみ委員会の活動

「あるック吹田」改訂で取り上げたところを中心にあるック吹田散策会を実施。「大学シリーズ」として、関西大学、大阪大学、大阪学院大学、千里金蘭大学、国立民族学博物館を、またモノレール車両基地、阪急正雀工場、吹田市消防本部、服部緑地・日本民家集落博物館などを見学。また研修会として「堺のまちなみ散策とガイドとの交流」を実施しました。

2009 年 9 月に吹田市観光センターの開設、同 10 月旧西尾家住宅の重文指定、2010 年の市制 70 周年、「あるック吹田」改訂を目前にして、2009 年 12 月に、「市民観光都市すいたの充実・発展を目指して」との要望書を提出しました。

## 4. 生活環境委員会の活動

企業や公民館との協働での「みどりのカーテン」をはじめ、「エコクッキング」、「森のクラフト〜リースづくり」などの活動に引き続き取り組みました。

関西大学では喜田・小田信子が 2009 年度の講座「環境と社会」の 2 コマを非常勤講師として担当、その教科書「地球環境問題の基礎と社会活動」を関西大学の先生方と共著で同年 7 月古今書院から出版したほか、引きつづき「食と安全」の講座やエコクッキングを指導しています。

2009 年 8 月と 11 月の大阪市職員研修、8 月に大阪市民環境調査の支援に参加しました。また 2010 年 10 月名古屋で開催の COP10 のフォーラムに 3 名が参加しました。

## 5. 会報委員会の活動

表紙の絵、59 号(2008 年 10 月)から始まった「吹田の古民家」(絵:安芸早穂子、文:岡村昇二)が 66 号(2009 年 12 月)に終了、「吹田の風景」(絵と文:増野 暁)に変わりました。

2010 年 10 月より「吹田のゴミ事情」を 3 回連載しました。多数の会員の投稿記事があり、12~16 頁の充実した会報となっていました。

## 6. 他団体との連携、提案などの活動

アジェンダ 21 すいた、市民協働学習センターと自然体験交流センターには理事が運営に参加。

紫金山みどりの会、吹田自然観察会、西山田ヒメボタルの会、吹田くわいネットワーク、浜屋敷まち案内人などの活動にも当会の多数のメンバーが参加し、必要な場合には当会と連携して活動しています。

また、吹田市内での活動が評価され、2010 年に吹田市景観まちづくり賞を受賞しました。

# 吹田市観光マップ「あるック吹田」を持ってコースを歩く(2)

## 山田コース

まちなみ委員 長岡弘隆 (写真提供 岡崎強一)

10月6日(木)の午前中に、有志8名にて山田コースを歩きました。天候は晴れ。歩いていれば半袖でも十分に暖かい絶好のまち歩き日和で、秋の景色を楽しみながらのんびりと歩くことができました。



秋の王子池を観察する参加者の様子



旧山田村のまちなみ



板張りの蔵

### 山田コースの見どころ

山田コースの見所は、旧山田村集落の歴史を感じさせるまちなみです。今も杉板張りのまちなみが残っています。また、それと対比的な山田駅前や万博記念公園の新しい施設も、もう一つの見所です。

王子池では、ヒドリガモなどの渡り鳥はまだ来ていませんでしたが、ヨシが茂る水辺の様子を観察することができました。「王子」という地名は、近くにあった八王子社の名残りで、今も橋の名前が「八王子橋」として残っています。山田には山田川を渡る橋が多くありますが、「九十九橋」(「津雲台」の由来である小字名「九十九」の名残り)「追手橋」(山田城の追手門の名残り)など、その名に昔の名残りを留める橋も多いので、注意して歩くと楽しみが増えるかと思えます。小野原街道に沿って旧山田村集落に入り、途中から山田上愛宕社の方に曲がるのですが、今回のあるック改訂で曲がる場所がわかりやすくなったと思います。

小野原街道に戻り、集落内をしばらく行くと、「山田上街角ふれあい公園」という公園が右手にあります。2014年にできたこの公園は、休憩場所の少ない山田コースで絶好の休憩ポイントとなっています。この場所は、小学校長や山田村の村長を務められた津中作治さんの邸宅跡です。

山田伊射奈岐神社では、秋祭りのために、境内に御神木が立てられていました。

太鼓神輿をこの御神木に当てながら回る「木あたり」という行事のためのものです。昔は境内に生えていた大木を使っていましたが、今は丸太を地面に掘り立てて使っています。

安養寺では、美しいモミジのトンネルが形成されており、あとは紅葉を待つばかり。この号が発行される頃には、既に紅葉していると思いますので、是非「あるック吹田」を持って山田にお越しください。



山田伊射奈岐神社  
秋祭りの御神木

### 旧「あるック吹田」(P6~7)からの主な変更点

- ・夢つながり未来館の追記：2013年の訂正リーフには記入していましたが、今回地図内に2011年オープンした夢つながり未来館を記入しました。図書館や子育て青少年拠点となる施設が入っています。
- ・旧山田村内の詳細地図を追記：まち歩きの際に分かりにくい山田村内の拡大地図(三ツ辻~宗名寺)を追記しました。旧版では、三ツ辻付近のみの拡大地図でした。
- ・地図に山田上街角ふれあい公園の位置を追記しました。
- ・石仏群の説明：旧版では「15体」でしたが、「16体」に増えています。

# 『環境先進都市吹田』の実現に向けて ～京都市に学ぼう『雨庭のすすめ』～

まちなみ委員 松岡要三

2013年8月26日の吹田市域を襲った集中豪雨を覚えていますか(写真右)。今後も予想されるため、吹田市ではある面積以上の開発に雨水の浸透柵や一時貯水槽の設置を義務付け、また下水管や調整池の整備に力を入れてきました。

集中豪雨は日本だけでなく、世界中で発生し大きな問題です。そのために経済的で合理的な賢い方法の検討がされ、アメリカやヨーロッパで今進められているのが「雨庭」の考え方です。

日本では京都学園大学バイオ環境学部森本幸裕教授が中心になって推進されていて、先生から小冊子「雨庭のすすめ」(右写真)をいただいたので、それを元に日生跡地の住宅開発計画に「雨庭」を提案しました。また、11月12日(土)午後、森本先生の公開セミナー「ヨーロッパの雨庭事情」(於 京都太秦キャンパス)に参加しました。それらをもとに「雨庭」を紹介します。

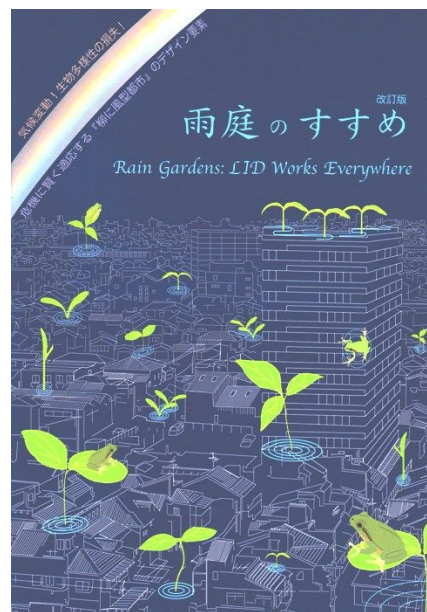
・**雨庭とは**：屋根や駐車場、庭など敷地に降った雨を窪地に一時的に集め、地面にゆっくり浸透させる「雨水浸透型の緑地」のことです。家の庭、学校の校庭、ビルの空いたスペース、駐車場の片隅などが対象になり、作り方はマニュアルに従って簡単にできます。庭に趣きを与え、下水の負荷軽減、ヒートアイランドの防止にも有効です。

・**京都では**：森本先生を中心に「京都雨庭研究会」を結成して研究や活動を推進し、また京都市都市緑化協会の広報紙「京のみどり」で「雨庭」を連載、戸建て住宅への雨庭づくりを勧めています。また大学の京都太秦キャンパスには雨庭が整備され、JR 京都駅ビルには実験的な雨庭「緑水歩廊」が設置されています。

・**環境先進都市すいたを目指して**：円山町の官舎跡と日生グランド跡、春日3丁目の竹林に大規模な戸建て住宅開発が進められていますが、是非「雨庭」の設置を推進されることを期待します。吹田には「健都」や千里ニュータウンをはじめマンションや戸建て住宅などの建設が多々あります。また吹田市には造園業者も多くあるので、花と緑の情報センターを中心に事業者や大学、市民を巻き込んで「吹田雨庭研究会」を設置し、「雨庭」を推進されることを提案します。それと合わせて健都に京都梅小路公園にある「いのちの森」のような「生物多様性の森」ができることを切望します。



関大前が水没 店舗十数店が浸水被害  
関大と関大前情報誌「ブームスポーツ」WEV版より



## つれづれに 柚子 (ゆず)

この季節、料理に柚子を使うことが多くなる。我が家の食卓にも、山椒の実と柚子は欠かせない葉味である。10月末から11月、樹木が紅や黄に色づき、その色彩を増すころ、黄柚子が出まわる。

山椒の実は、5月の連休ころに出始める。大き目の実を買い求め、下処理後冷凍しておく。これは母が毎年作っていたもので、私も何となく作っている。1年中いつでも使うことが出来るので便利だ。

柚子は、香りと酸味(柚酢)が大切なので、保存は難しいが春先まで楽しむことができる。両方とも、ちょっとおしゃれな料理にしてくれる。

先日、友人が「我が家の柚子の木は実がならない」と話していた。俗に、『桃栗3年柿8年』というがそのあとどう続くかご存知ですか？ いろいろ説はあるようですが『梅が9年、柚子の馬鹿者18年』。また一説には、『梨の馬鹿野郎16年、柚子の大馬鹿30年』と続くのです。

柚子には2種類あって、大馬鹿者の柚子は実柚子のこと。もうひとつは花柚子で、すぐに実を結ぶそうです。

柚子は正確には『柚』が木の名前で『柚子』はその実をさすと書かれています。今年の冬至には、湯舟に柚子をいっぱい浮かべ、贅沢な柚子風呂というのはいかがでしょうか。(高野台 秋山こずえ)



# 日本民俗建築学会平成 28 年度公開シンポジウム

## 保存民家の活用と市民参加～保存から展示そして活用へ～

会長 小田 忠文

コスモスが咲き、ところどころに紅葉が始まった服部緑地にある日本民家集落博物館（民集博）のなかの「日向椎葉（宮崎県東臼杵郡椎葉村）の民家」を会場として10月22日(土)13時から日本民俗建築学会主催で「保存民家の活用と市民参加～保存から展示そして活用へ～」というシンポジウムがありました。全国から集まった約50人の会員を含め160人近くの参加者で満員となった民家の床は大丈夫かと心配するほどでした。



はじめに国立民族学博物館名誉教授で日本民俗建築学会会長の杉本尚次さんの基調講演がありました。民集博は博物館の中でも「野外博物館」という分野に属するのだそうです。杉本さんは北欧や米国の野外博物館を紹介しました。欧米では移築民家の中で地域の伝統工芸を製作実演したり、パンを焼いたり、民俗舞踊を再現したりして来館者に伝統的な生活文化を体感してもらい、楽しみながら学ぶことができる博物館などがあるそうです。

パネリストの事例報告の最初にすいた市民環境会議の松岡理事が登壇して吹田市の保存民家の事例（三つの旧庄屋敷敷）を紹介しました。

### 吹田市の旧庄屋敷の保存と活用・市民の活動

1. 旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館 仙洞御料の庄屋敷敷）
2. 浜屋敷（吹田歴史文化まちづくりセンター 旧旗本の庄屋敷敷）
3. 旧中西家住宅（吹田吉志郎文人墨客迎賓館 淀藩の大庄屋敷敷）

科学研究所研究費公開発表施設等  
後援：公益財団法人大阪府文化財センター／日本民家集落博物館  
一般社団法人日本民俗建築学会 平成28年度公開シンポジウム

## 保存民家の活用と市民参加

### ～保存から展示そして活用へ～

平成28(2016)年 **10月22日(土)** 事前申込不要 参加費無料

■10時30分～12時 日本民家集落博物館見学会内  
（博物館入口《民家門前》にて受付・集合）

■13時～17時 シンポジウム（日本民家集落博物館内「日向椎葉の民家」にて）

◆基調講演  
「地域住民の暮らしに響く世界の野外博物館（民家館）」  
杉本尚次（一般社団法人日本民俗建築学会会長、国立民族学博物館、総合研究大学院大学名誉教授）

◆報告  
(1)「吹田市の旧庄屋敷の保存と活用・市民の活動」松岡要三（NPO法人すいた市民環境会議理事長）  
(2)「原田しろあとの保存と活用」吉岡正起（NPO法人とよなか歴史文化の会代表理事）  
(3)「博物館運営を支えるボランティア」松田久仁子（日本民家集落博物館ボランティア）

◆パネルディスカッション  
杉本尚次／松岡要三／吉岡正起／松田久仁子  
コーディネーター：小島久美（日本民家集落博物館総務学芸員）

◆民家展（「空家の家業」にて展示）  
「古民家二人展」神家一、中野直樹  
2016年10月8日(土)～23日(日)  
実行委員：竹園誠（委員長、日本民家集落博物館館長）／小島久美／平野信子／森岡真／茶谷幸久  
学会事務局担当：岸本雅／山崎裕子

お問い合わせ 日本民家集落博物館 〒561-0873 大阪府豊中市服部緑地1-2  
TEL：06-6862-3137 / FAX：06-6862-3147  
URL：http://www.occh.or.jp/minka/

【電車】北大阪急行電鉄（地下鉄御堂筋線）緑地公園 駅下車 西口を出て約1km  
徒歩徒歩約30分 家へ約2km  
【車】国道423号線（新築支路）から西へ約1km（標所前）。最寄駅は10分車程約10分

一般社団法人日本民俗建築学会  
〒162-0843 東京都新宿区信谷町2-33 造形大学デザイン工学部建築学科内  
E-mail: minken@outlook.jp



民集博松田さん 豊中 吉岡さん 松岡理事 杉本会長

旧西尾家住宅では重要文化財に指定されるまでの地域住民の保存活用の活動を細かく紹介しました。浜屋敷については当初から各方面にボランティアが参画し、現在は庭掃除、喫茶、まち案内人など10ものボランティア組織が運営に関わっていることを紹介しました。

吹田の次は豊中市の吉岡さんが豊中市の原田城址敷地内にある旧羽室家という和洋折衷様式の住宅を管理するNPO法人が様々なイベントや講座を開催し、地域住民に親しまれている経緯を紹介しました。つづいて民集博のボランティア代表の松田さんが職員数の減った民集博が多くの業務をボランティアに頼っている現状を語りました。

パネルディスカッションでは今回事例報告のあった吹田・豊中のような都会での保存民家はボランティアに恵まれているが、地方ではボランティアすら集まらない地域もあるとのことで、地域の保存民家の魅力についての発信はどのようにすべきなのかなど、忍び寄る高齢時代を前に悩ましい話が出てきました。

## <私の本棚より お勧めの1冊>

# デーヴィッド・アトキンソン(著) 「国宝消滅」(東洋経済新報社 2016)

まちなみ委員・監事 長岡弘隆

(吹田歴史文化まちづくり協会理事)



今回は、観光問題についての本を紹介させていただきます。著者は、元ゴールドマン・サックス金融調査室長で現在は文化財修理の会社の社長を務めているイギリス人です。

本書のテーマは、今、文化財(主に建造物)の在り方を見直さなければ、「日本文化」が大きく失われてしまうという著者の危機感と、インバウンド観光を主とした対応策の提案であり、その意味では、本書は「日本の伝統文化継承」に関する本とも言えます。日本文化保護のためには観光の観点が必要であり、また観光振興のためには文化財の活用が不可欠であることを、元金融屋らしくデータや実際の例を挙げて具体的に説いています。

### 失われゆく日本文化と伝統技術

本書の最大のテーマは、失われゆく日本文化を如何にして継承していくかということですが、著者の目線は文化財そのものではなく、それを成り立たせてきた日本の生活文化に向いています。本書中頃に『「建築家」の影響』とタイトルされた章があります。いわく、建築の専門家は器としての建物だけに目が行き、その中で営まれていた生活や文化に目が向いていないと。建築専門家の一人として、私にとっては耳が痛い話ですが、吹田歴史文化まちづくりセンター(通称:浜屋敷)においては、そのような伝統的な生活文化にも取り組んでいますので、今後ともより多くの方に知ってもらえるように努めていきたいと思っています。

また、伝統技術の継承に関しても、著者の目線は技術そのものの保護ではなく、その技術を成り立たせてきた産業の消滅に向いています。「補助金だけで技術を残すのは難しい」と述べて、特権的な職人意識の改革と一般的な産業に伝統技術を再び組み込むことの必要性を説いています。

### かんこう問題とかんきょう問題

本書を読んでみて、観光(文化財保護)問題と環境問題には、類似点が多いことに気づきました。

#### ・潜在的な価値と認識の不足

著者は「日本は観光大国になる潜在力がある」と述べています。一方、日本の環境が価値あるものだという事は言うまでもないですが、どちらもその価値があまり認識されていません。

#### ・多様性が重要

著者によれば、観光においても多様性が重要とのこと。環境においても多様性が重要であることは言うまでもありません。

#### ・思い込みの危険性

著者は、「伝統文化=京都」の思い込みに疑問を呈しています。環境も田舎にだけあるのでないことは、当会の活動が示す通りです。

#### ・根本に伝統的な生活文化の消滅があること

環境問題においても、例えば田畑の減少が植生の変化に結びついているように、生活文化の変化が両方の問題の根本にあること。

#### ・産業の一部として成立し難いこと

どちらも、重要ではあるが、目先の効果を可視化することが難しく、産業化し難い分野ですが、そこを努力すべきと著者は述べています。

#### ・高齢化と継承者不足

これは、どこもそうですが、観光(文化財保護)問題と環境問題の根っこは意外と同じなのかもしれません。

### <会報委員会より>

- ・幅広く会員からの情報提供と会報の原稿を求めています。身近な話題をお知らせ下さい。また、取材・編集・印刷に協力していただける方を募集しています。
- ・連絡先: 松岡要三 メール: [matsuokayh3@sutv.zaq.ne.jp](mailto:matsuokayh3@sutv.zaq.ne.jp) 電話: 090-6974-1058